

御嶽山噴火の先行現象

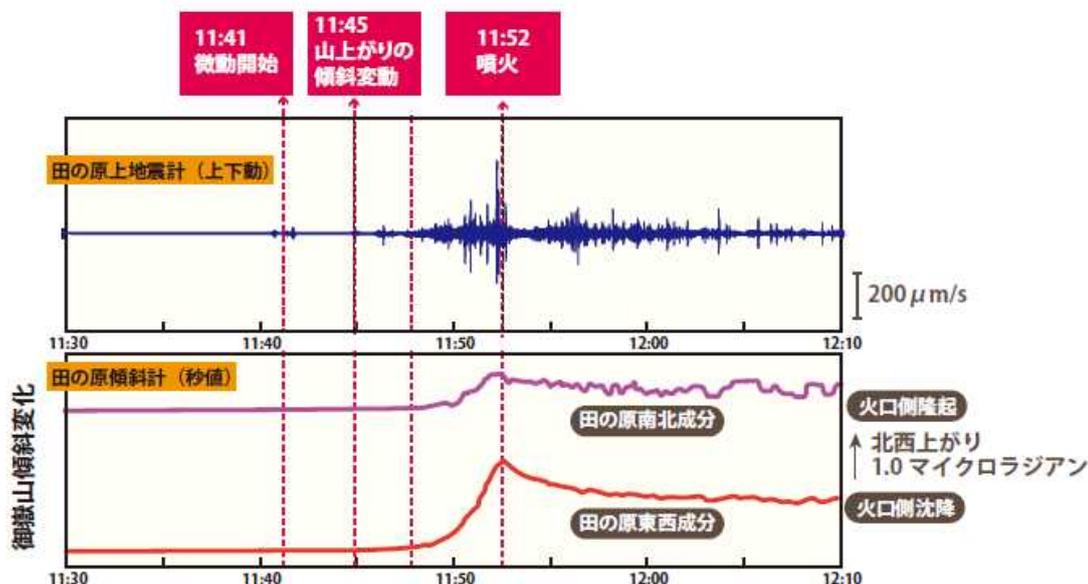


図1 御嶽山の水蒸気爆発に先行して記録された地震と傾斜変動

水蒸気爆発の発生11分前より火山性微動が観測された。その4分後には、山体膨張を示す火口方向上がりの傾斜変動が火口から南東約3kmの観測点で検知された。

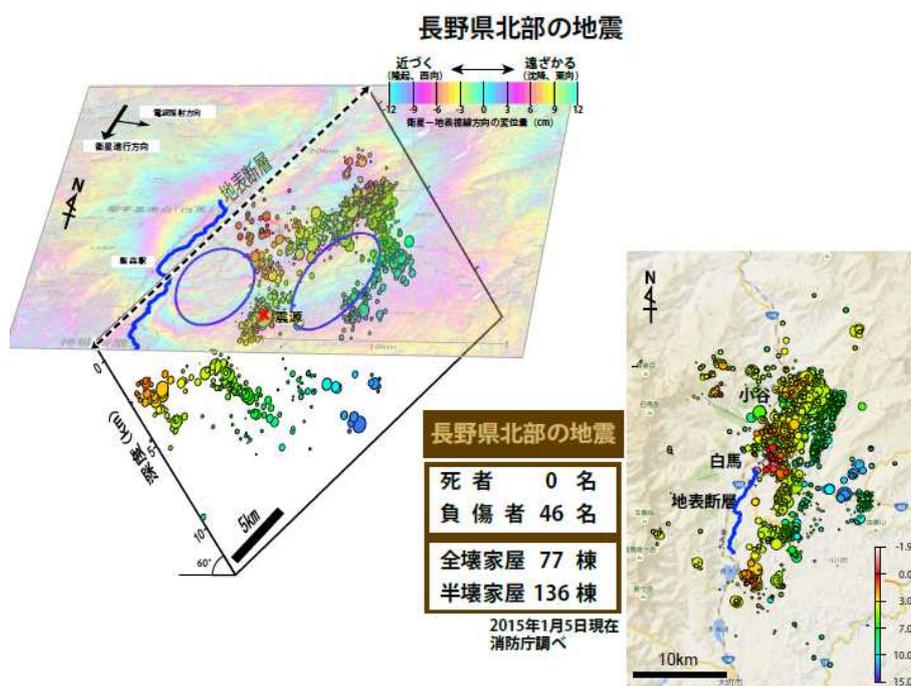


図2 長野県北部の地震

(左上) 本震の地震断層沿いに発生した余震分布と SAR 干渉画像解析による地殻変動。この断層面の浅部延長では、神城断層に対応する地表変動が見られる。浅い地震が発生していない領域の延長には地表地震断層が存在する。深さ 5km 付近の青い楕円で示された領域では余震がほとんど発生していない。この領域は強震動を生成した領域に対応すると考えられる。SAR 干渉画像では、縞縞の間隔が狭いと、その領域の地殻変動が大きいことを示している。(右下) 長野県北部の地震発生後約1ヶ月間の余震分布。丸の大きさは地震の規模を、丸の色は地震の深さを表わしている。地表地震断層が見られた地域では、浅い地震が発生していない。